

意見書

広く公平に若者の意見を募るべきである

2019.1.24 瀬名秀明

要約：2025 日本万国博覧会誘致委員会は関西の医学生を中心とした若者団体「WAKAZO」／「inochi 学生プロジェクト」の活動を支援し、彼らの提案する万博パビリオン案等を歓迎しているが、「WAKAZO」／「inochi 学生プロジェクト」のアウトプットする内容は未熟であり、問題がある。またなぜ 2025 日本万国博覧会誘致委員会が「WAKAZO」の活動を特別に後援しているのか、国民にその理由は明確に示されておらず疑問が残る。このまま進めば、彼らが万博でパビリオン展示に参加協力することは既成事実化されてしまう。そのことを強く懸念する。従って若者の声を広く社会から聞いて万博に取り入れるためには、「WAKAZO」／「inochi 学生プロジェクト」を特別扱いすることなく、公平なコンペティションの開催によって全国から若者の意見を募るべきである。

私、瀬名秀明は、表記の件を「大阪・関西万博具体化検討会」に強く要望する。

私は以前、「2025 年国際博覧会検討会」の一委員として 3 回の検討会に出席した。平成 28 年 12 月 16 日開催の「第 1 回 2025 年国際博覧会検討会」で他の委員から「若者の声を聞くべきだ」との意見が出され、それを受けたのか、平成 29 年 2 月 15 日開催の「第 2 回 2025 年国際博覧会検討会」では議事次第に「inochi 学生プロジェクト御説明（2025 大阪万博誘致若者 100 の提言書）」が組み込まれ、inochi 学生プロジェクトの代表者が私たちの前でプレゼンをおこなった。

この inochi 学生プロジェクトは、以前から 2025 年国際博覧会の誘致歓迎活動をおこなっており、独自に医療・健康分野について学び、「2025 大阪万博誘致若者 100 の提言書」を作成し、大阪府知事に提出していた。ただしなぜ第 2 回検討会で多くの若者のなかから彼らが代表としてプレゼンの場に選ばれたのか説明はなかった。

「inochi 学生プロジェクト」とは、「一般社団法人 inochi 未来プロジェクトと

連携しながら、次世代イノベーター人材が企画・運営する学生の自主プロジェクト」とこちらのウェブページに説明がある (<https://www.kawai-juku.ac.jp/event/spc/mirai/nagoya/>)。彼らの「100 の提言」(パビリオン案・企画案)は、経産省が地方自治体や企業の若者にヒアリングしたパビリオン案とともに、委員への明確な説明もなく平成 29 年 3 月 13 日開催の「第 3 回 2025 年国際博覧会検討会」資料内に組み込まれ、瀬名以外にひとりの委員もこれに対して疑義を提示することなく、資料は検討会で承認された。

しかしながら「100 の提言」や他の若者のパビリオン案の出典が資料中に明示されていなかったため、彼らのパビリオン案があたかも検討会委員の総意によって考え出され、決議されたものであるかのような印象を国民に与え、非常な混乱を巻き起こした。彼らの提言の一部には、科学倫理的に疑問があると思われるもの、勉強不足と思われるもの、一見すると差別的なものなどが含まれていたからである。ところが彼らの提言の内容にそうした問題があることを、瀬名以外に検討会の場で指摘する委員はいなかったのである。

彼らの提言はやや軽薄に報道され、それが Yahoo!ニュースに転載されたことによって国民に広く知れ渡り、大きな誤解と混乱を招いた。経産省は彼らの提言部分を削除して資料を再作成しパブリックコメントを募集することになった。

残念ながら(瀬名の知る限り)「inochi 学生プロジェクト」や瀬名以外の他の委員が当時の混乱について語った形跡はひとつも見受けられなかった。「inochi 学生プロジェクト」は混乱を招いた点を詫びたり、「今後いっそう勉強に励んでよりよい提言ができるようにする」と前向きに語ったりすることもなかった。極めて遺憾なことである。

彼らの当時のウェブページを見ると(註:現在は閲覧できない)、彼らは当時非常に恵まれた環境のもとで、関西の再生医療研究を牽引する第一線の著名研究者からの監修も受けて勉強を重ねていたことがわかる。しかし彼らがアウトプットした提言は未熟なものであった。ところが当時の監修者、後援者、大阪府らは、彼らの提言書を事前に見ていたにもかかわらず、その内容が未熟であることを指摘しなかった。それどころか彼らを持ち上げ、批判的精神も表明せず、「第 3 回 2025 年国際博覧会検討会」資料に組み込むことを見過ごしてしまった。若者の声を聞くことは確かに大事であるが、その内容をきちんと吟味し、だめなものだめだとはっきり述べ、的確な導きを与えるのも大人の仕事であ

ろう。その点、「inochi 学生プロジェクト」は知識と経験豊かな科学ファシリテーターが不在のまま活動が続けられた不幸な事例であると考え。そしてその不幸が改善された形跡は認められない。

彼らの提言による当時の混乱は、現在でも 2025 万博に悪いイメージを強く与えている。このダメージは大きく、無視できないものである。

inochi 学生プロジェクトと関連の深い団体に「WAKAZO」(<https://wakazo-expo.com>)がある。彼らは「関西の医学生を中心とした、2025 日本万国博覧会誘致委員会後援の団体である」と標榜しており、実際に「2025 日本万国博覧会誘致委員会」のウェブページ(<https://www.expo2025-osaka-japan.jp>)には彼らの活動が掲載されたりしている。例えば 2018.12.4 付の記事《inochi 学生・未来フォーラムで「ワカゾウよ、万博を創れ。そして未来を席卷せよ。」が開催されました！》があり、そこには 2025 年国際博覧会検討会の委員も数名写真に写っており、委員らが協力していることがわかる。また以前にも「WAKAZO」はコンペティション形式で万博についてのアイデアを募集し、彼らに取りまとめるかたちで発表と顕彰がおこなわれたことがあり、その審査員にも大阪・関西万博具体化検討会の委員複数名が入っていた（応募者が非常に少ないコンペティションとなった）。

「WAKAZO」は「万国博覧会にて“WAKAZO 館”という実験場（パビリオン）を実装する」とホームページ上に掲げており、実際、上記の記事によれば、「WAKAZO」は 2018 年 11 月 25 日に「WAKAZO パビリオン」の模型の発表会などをおこない、「参加した新井大阪府副知事からは「素晴らしい提案をいただいた（後略）」と挨拶」されたという。

私が疑問を呈したいのは、なぜ「WAKAZO」がこれほど 2025 日本万国博覧会誘致委員会や 2025 年国際博覧会検討会の一部の委員の支援を受け、若者のなかでも特別扱いされているのかということである。あたかも、はじめから「WAKAZO」が 2025 万博でパビリオン展示をおこなうルールが敷かれているかのような印象さえ国民に与えるのである。これは不公平ではないだろうか。「WAKAZO」に参加する若者だけが 2025 万博に極めて近い位置にいるのはおかしい。

「WAKAZO パビリオン」の実現を既成事実化してはならないと、私、瀬名秀明は考える。その理由として、

1、「WAKAZO」の活動には十分なファシリテーターがついていないと思われ、以前にもそのアウトプット内容が国民の間で問題となったことがあり、現時点でそれらの未熟な活動が改善される動きが認められないこと。

2、「若者の声を聞こう」という 2025 日本万国博覧会誘致委員会の姿勢は称賛されてよいと思われるが、それはイコール「WAKAZO」の声を聞く、ことではない。全国に若者はたくさんいるのに、現在「WAKAZO」以外の声がほとんど届かないという問題のあるシステムが既成事実化してしまっていること。

が挙げられる。

2025 万博のために「若者の声を聞く」ことには、私、瀬名秀明も賛成である。また実際に 2025 万博のパビリオン展示で若者の声を反映したものを展開するのもよいだろうと思う。

だがそれはイコール「WAKAZO」の提案を採用すること、であってはならないと強く思う。

若者の声を公平に聞くために、「WAKAZO」さえも全国のなかの一提案者として扱う日本規模のコンペティションを開催することを、私、瀬名秀明は提案する。「WAKAZO」はそのコンペティションの取りまとめ役にさえなってはならない。他の若者と同じように、同じフォーマットで応募し、公正な審査のもとでパビリオン展示や万博企画の協力権を勝ち取る必要がある。そうでなければ国民は納得しないであろう。

これは「いかに若者の声を聞いて、そのアイデアを万博で実現し、未来の社会へつなげてゆくか」という重要なテーマにも沿うものであり、日本が示すべき健全な方向性であると考えている。

繰り返すが、決して「WAKAZO パビリオン」の実現を既成事実化してはならない。彼らの「WAKAZO パビリオン」案は、日本全国にいる他の若者たちと公平な競争によって審査・検討されなければならない。また大阪府は今後も「WAKAZO」の提出するアイデアを特別視してはならないと思う。「WAKAZO」が 2025 万博の応援活動を繰り広げるのは構わない。だがそうした活動と、彼らのアイデアが実際に万博で用いられるのは、まったく別の問題である。私たち大人はそれを明確に区別し、「本当に若者の声をきちんと聞く姿勢」を崩してはならないと、強く思う。以上